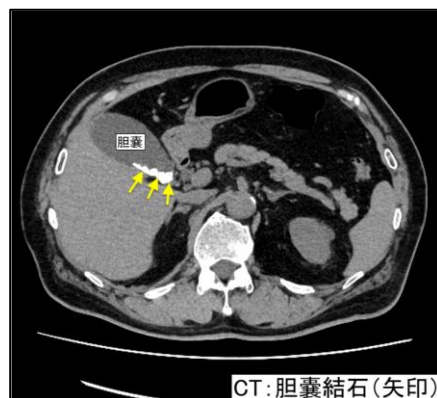
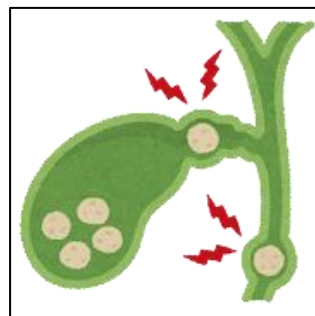


胆嚢疾患の治療について

肝臓の働きのひとつに胆汁という消化液を作る働きがあります。胆汁は肝臓を出ると胆管を通じて十二指腸に流れていき、食物と混ざり合って脂肪分の消化を補助します。その途中にある胆汁を一時的に蓄えておく袋が胆嚢です。食事により胃内に食物が入ってくると、胆嚢は収縮して蓄えた胆汁を排出し、効率的に消化する仕組みになっています。当科では主に下記の疾患を対象に治療を行っています。

胆嚢結石症

何らかの原因により胆嚢の収縮機能が低下すると胆嚢内に胆汁が停滞して濃縮し、泥→砂→石と固形化することがあります。これを胆嚢結石症と呼びます。胆嚢結石があっても必ず症状が起こるわけではなく、健診などで偶然発見される方もおられます。よくある症状として胆嚢内で結石が動いたり、胆汁の出入り口である胆嚢管に結石がはまり込んだりすることで食後にみぞおちや右脇腹が痛む胆石発作があります。人によっては背中が痛んだり、放散痛といって右肩に痛みを感じたりすることもあります。治療は外科手術が中心で、痛みや熱など症状がある場合に手術の適応となります。手術以外の治療としては胆石溶解療法、結石破碎療法などがありますが、効果が確実ではなく再発も多いことからあまり一般的ではありません。無症状の場合は基本的には手術適応ではありませんが、胆石や胆嚢の状態、社会的背景などを考慮して手術を行うこともあります。



胆嚢炎

おもに胆石が原因で胆嚢に急性の炎症が起こった状態を急性胆嚢炎と呼びます。また、何らかの原因で長期間食事を摂取していない患者さんでは、胆嚢の動きが悪いために胆汁が停滞して細菌感染を起こし急性胆嚢炎になることがあります。腹痛・発熱・嘔気・嘔吐などの症状を伴います。重症化すると胆嚢が腐り破れて腹膜炎になったり、菌が血液のなかに流れ込んで敗血症を引き起



こしたりすることがあり、緊急で治療が必要となります。患者さんの状態にもよりますが、急性胆嚢炎診療ガイドラインでは**早期の手術が推奨**されており、**当院でも積極的に緊急手術**を行っています。

一方、急性胆嚢炎を繰り返すことで胆嚢の壁が厚く硬くなり、胆嚢の拡張・収縮機能が低下した状態を慢性胆嚢炎と呼びます。慢性胆嚢炎は胆嚢癌との鑑別が重要ですが、**検査で胆嚢癌ではないことを十分に確認できない場合には手術**を行い、摘出した胆嚢によって診断する必要があります。

胆嚢腺筋症

胆嚢の壁を構成する粘膜と筋層の一部に厚みのある部分が形成される変化です。超音波検査やCT検査で腫瘍性病変（癌やポリープ）との十分な鑑別ができない場合には、**診断と治療を兼ねて手術**を行うことがあります。

胆嚢ポリープ

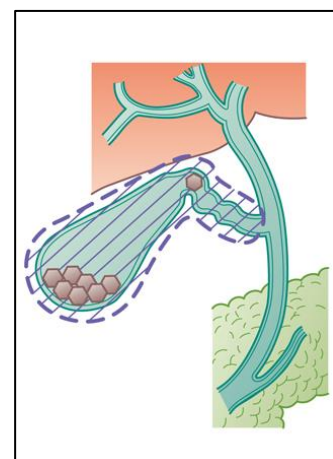
胆嚢内にできる隆起性病変を総称して胆嚢ポリープと呼びます。ほとんどは無症状で、健診などで偶然発見されます。良性ポリープは治療を要しませんが、**悪性を疑う所見が認められる場合は手術**を行います。悪性を疑う所見として、大きさが10mm以上、広基性の病変、豊富な血流、増大傾向などがありますが、総合的に手術の適応を判断します。手術で切除した胆嚢を病理検査で調べることで最終的に悪性であるかどうかを判断します。

胆嚢癌

胆嚢内にできる悪性腫瘍です。早期の胆嚢癌では、胆嚢（+肝臓の一部）のみ摘出すれば十分な場合もあり、**腹腔鏡下胆嚢摘出術**を行うことがあります。また、胆嚢結石症や胆嚢炎等の良性疾患の診断で腹腔鏡下胆嚢摘出術を行った後に病理検査で胆嚢癌が見つかった場合には、改めて追加手術をお勧めすることがあります。

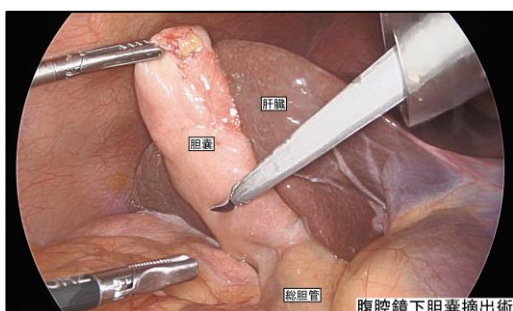
手術について

当院では年間約120件の胆嚢摘出術を行っています。術前の検査で胆嚢結石症や胆嚢炎などの良性胆嚢疾患と診断した場合は、**腹腔鏡下胆嚢摘出術を標準治療**としています。手術は全身麻酔で行います。腹部の4ヵ所に5-10mmの孔をあけて気腹（炭酸ガスでお腹を膨らませること）し、腹腔鏡手術用の道具を用いて胆嚢を切除します。腹腔鏡手術では、**開腹手術に比べて術後の痛みが少なく、早く**



退院出来て社会復帰も容易とされています。ただし、腹腔鏡下の切除が困難なとき（胆嚢炎による炎症や以前の手術による癒着が高度な場合、出血量が多い場合など）は安全を優先して開腹手術に移行することがあります。また、高度な炎症や以前にお腹の手術を行ったことで高度の癒着が予想されて、術前から腹腔鏡手術が困難であると判断される場合や、悪性腫瘍が疑われて拡大手術が予想される場合は、初めから開腹手術を予定して行うことがあります。開腹手術の場合は、みぞおちから臍上までの傷（上腹部正中切開）や、右肋骨に沿った傷（右肋弓下切開）で行います。手術の内容自体は腹腔鏡下手術と概ね同じです。

経過が順調ならば腹腔鏡手術で術後3-4日、開腹手術では5-7日で退院できる見込みですが、術前・術後の経過により個人差があります。



腹腔鏡下胆嚢摘出術